

# 「自治振興区の可能性に迫る」



### ＜パネリスト＞

高野町自治振興区  
連絡協議会 会長  
**大坂 秋雄**さん  
塩原自治振興区 会長  
**牧田 繁喜**さん  
山内自治振興区 事務局長  
**実安 裕美**さん

### ＜コメンテーター＞

県立広島大学 生命環境学部  
准教授  
**前川 俊清**さん  
＜コーディネーター＞  
島根県中山間地域研究センター  
地域研究グループ 科長  
**藤山 浩**さん

## 攻めの地域づくりへ

**藤山** 全国でも先進的に、住民自治活動に力を入れている庄原市の取り組みは、私も勉強させてもらっています。皆さんは何気なく活動されているかもしれませんが、素晴らしい取り組みだと思っています。これまで実践されてきた活動を紹介してください。

**牧田** 生活道除雪や買い物支援事業に早くから取り組んでいます。買い物支援事業は15年くらい続けており、老人施設に入られた方も買い物支援の日だけは、塩原に帰って来られます。多くの住民に「塩原に住んでよかった」と思ってもらいたいと願っています。

国指定重要無形民俗文化財の大山供養田植は4年に1回、塩原が中心となって行い、延べ200人くらいの住民が関わること、地域内の人関係がうまくいっていると思います。その他、ひな祭りや営農組合、和牛の共同飼育など、さまざまな活動をしています。

**大坂** 高野地域の自治振興区で構成する高野町自治振興区連絡協議会では、少しでもきれいなまちづくりをしていこうと「花いっぱい景観づくりコンテスト」や、親睦交流のための「グリーンゴルフ大会」、季刊誌の発行を行っています。

高野地域では平成22年度から公民館を自治振興センターにすることを連絡協議会で決め、平成21年度は準備期間として自治振興センターの組織づくりを検討していきます。高野地域には2つの公民館があり、2つの自治振興センターにするのか、事務局員の人材確保や組織体制をどうするかなどの課題があり、地域住民の意見を集約して、より良い方向に進めていこうと思っています。

**実安** 山内自治振興センターは、常勤職員2人体制で自治振興区の事務を行っています。自治振興区も広域となり、情報の共有が課題でしたが、自治振興区の広報紙やホームページなどを充実するほか、毎月開く自治会長会や自治会ごとの集金常会などで情報を共有しています。自治振興区の組織に各団体の役員を加え、各団体との連携や協力もうまくできていると思います。

庄原地域連絡協議会には、各区長が集まる役員会のほか、事務局長会議を2カ月に1回開催して、各自自治振興区の情報を共有しています。また、常駐の事務職員の事務能力の向上のため、専門研修も行っています。

「自治振興区の可能性に迫る」をテーマにした地域づくりシンポジウムが3月18日、庄原市ふれあいセンターで開催されました。庄原市自治振興区連絡協議会と庄原市が主催。県立広島大学の前川俊清准教授による研究成果報告に続き、自治振興区の役員たちが、これからの地域づくりや組織体制などについて話し合いました。

### ふじやま こう

昭和34年、益田市生まれ。一橋大学経済学部卒業後、高校教諭、(株)中国・地域づくりセンター主任研究員などを経て、平成10年に島根県中山間地域研究センターの研究員に着任。平成16年から同センター地域研究グループ科長。専門分野は、中山間地域政策、地域計画、環境管理、GISなど。



### おおさか あきお

昭和24年、高野町生まれ。りんご園を経営。平成10年から7年間、高野町議会議員。平成17年から中門田自治振興区区長、平成18年から高野地区地域審議会会長、平成19年から高野町自治振興区連絡協議会会長。



### まきた しげき

昭和18年、東城町生まれ。大工。小奴可地区自治振興区連絡協議会代表、塩原営農組合長、小奴可地区芸能保存会副会長。20年以上「里親」となり子どもたちを受け入れ、現在は北備地区里親会会長として青少年の健全育成にも積極的に取り組む。



### さねやす ひろみ

昭和22年、水越町生まれ。玉川大学農学部を卒業後、東京で民間会社に勤務。昭和53年に帰郷し、農業に従事。平成元年、庄原市PTA連合会会長。平成10年から7年間、庄原市議会議員。平成18年山内公民館長を経て、現在は山内自治振興区事務局長。



### まえかわ としきよ

昭和23年、京都市生まれ。京都大学農学部を卒業後、同大学助手を経て、昭和58年同大学農学博士。平成元年に広島県立大学助教授、平成19年に現在の県立広島大学生命環境学部准教授。平成19年度から2年間に渡り、88自治振興区すべてに実態調査を実施。





# 自治振興センターへの期待

**藤山** 自治振興センター化が課題として出てきていますが、自治振興センターへの期待や今後の見通しを聞かせてください。

**牧田** 過疎高齢化の中で、地域をどのようにに次世代へつなげていくのか、10年後も続けていける住民自治組織を作らなければなりません。ボランティア活動だけでなく、収入を得ることも自治振興区の取り組みとして必要でしょう。そういった活動の拠点となる自治振興センターを期待しています。そのためには、市民と行政の協働のまちづくりについて、どこまでを住民がやるのかなど、共に話し合っているかなければならないと感じています。

**大坂** 自治振興センター化を決めた理由の1つは、自治振興区の活動が幅広く、やればきりが無いということです。施設の指定管理や補助金申請など、区長や事務局の負担が大きくなってきています。事務量の増加で消化不良を起している状況の改善や行政と自治振興区のパイプ役として専任の事務職員を置くことが必要だと感じています。さらには、合併により住民の声が行政に届きにくい、地域農業の衰退、自治振興区間の格差拡大という課題を解決するためです。これまで

以上に地域の連携や協働体制を築くためにも自治振興センターが必要だと感じています。

**実安** 自治振興センター化する前は、予算が削られるのではないかと、生涯学習活動が衰退するのではないかと不安がありました。スムーズな移行ができ、専任の事務職員が就くことで事務効率の向上に繋がったと思います。各自治会の特性が失われるのではないかとはいわれませんが、行事はこれまで通りに行われ、活動が失われることもありません。自治会で対応できない事務処理や行事を自治振興センターの職員が行うことで、連携や一体感も生まれてきています。



前川准教授の研究成果報告

# 行政と住民の役割分担を

**前川** 合併によって周辺地域が弱体化したという声がありますが、自治振興センター化により同じような問題が起ころうのではないかと気がかりです。88自治振興区を大きい器に入れるだけでよいのでしょうか。今後、まとまることでのメリットなどを考えなければならぬと思います。各地域の現在ある活力を維持し、周辺と連携することでより発展していくことが必要で、それをするために何をすることが問われているのではないのでしょうか。

**牧田** 自治振興センター長には、市長から委嘱状をもらうような権限が必要と考えます。地域を守ろうと思っても、ある程度の権限や力がないと何もできません。地域住民の声を行政に届けたり、住民主体のまちづくりを進めたりするためにも、ある程度の権限は必要だと思っています。

**大坂** 自治振興区の活動の幅は限りなく広いので、行政は自治振興区に何をやってほしいのかを明確にしてほしいと思います。地域課題の解決に取り組んでほしいと言われても、何をどこまでやればいいのか分からないのが現状です。地域でも議論を深めることが必要ですが、行政と地域とのキ



ヤッチボールを行い、行政がどこまでやって地域住民がどこまでやるのかを詰めていかなければいけません。

**実安** 区域が大きくなるとまとまりにくくなりますが、大切なのは自治会がやる気を出したときに側面支援をしつかりとすることです。例えば新しいイベントを開催する時、素案を自治会が作っても、自治振興センターの支援で、さらに地域の活性化につなげていくことが必要です。自治振興センターには、自治会の側面支援や、地域づくりをコーディネートする力が求

められていると思います。



地域を「つなぐ」お手伝い

## 自治振興区活動総合相談窓口設置

自治振興区の課題解決やさまざまな活動のヒントとなる情報をお伝えする「自治振興区活動総合相談窓口」が開設されました。

この窓口は、これまでの行政窓口と連携し、自治振興区間のネットワーク強化、総合的なサポートを目的に、自治振興区連合協議会が設置。委嘱したコーディネーター後藤ひろこさんが相談に応じます。

自治振興区活動で悩んでいることなど、さまざまなご意見・ご相談をお寄せください。



【コーディネーター】  
後藤 ひろこさん

庄原市自治振興区連合協議会委嘱事務員。しょうばら九日市愛好会の運営スタッフとして、会計・広告・ホームページの作成を手がける。日経ブログ新聞ぶらっと!の地域ライターとして庄原市の活動などを全国へ発信している。

### コメント(後藤談)

自治振興区の活動や現場の声をホームページや情報誌により、皆さんにお伝えしていきます。

### 問い合わせ

☎0824-73-1209(自治振興課内)

設置場所 サポートセンター(市役所4階)